

消防と人命救助にちなむ外国切手

平岩道夫(切手評論家)

今月は消防や人命救助にちなむ世界の切手の中から、4枚を紹介してみよう。

まず右上の切手は、1948年10月4日に、アメリカから発行されたもので、義勇隊消防隊300年(1648—1948)を記念した切手である。

初代創設者として有名なアメリカのピーター・スタイブサントの肖像を中央に描き、左右に昔と今の消防自動車が見られる。(写真1)

その下の切手、つまり右上2番目の切手は、1976年5月13日に、西ベルリン(ベルリン地区)から発行されたもので、ベルリン消防隊125年(1851—1976)を記念した切手だ。

中央に王冠と立ち上る熊、左右に火と消火のための道具が描かれている。(写真2)

さて3番目左上の切手は、1974年2月15日に西ドイツから発行された献血運動切手。この切手の図案は“変わりダネ”といっても、過言ではないだろう。

本誌がカラー印刷でないのが残念だが、“血液と救急車のランプ”が描かれている。赤と青を使ったあざやかな色彩には、一瞬、



写真3



写真1



写真4



写真2

ドキッとさせられてしまう。(写真3)

最後、つまり左下の切手は、1981年8月12日に、イギリスからお目見えしたのも。人口呼吸の様子を描いたもので、エジンバラ公賞125年にちなんで発行された。(写真4)

余談ながら、イギリス発行の切手には、1840年5月に最初の切手が発行されて以来、いまだに、“国名”が描かれていない。そのかわり、その当時の女王、または国王の肖像を、切手のどこかに描いている。

この切手には、右上にエリザベス女王の肖像がシルエットで見られるというわけだ。